

ソング オブ フィリピン

吉田 真人

5月9日フィリピンで大統領選挙が行われ、ボンボン・マルコス氏が圧勝した。6月30日に第17代大統領に就任する。

マルコス、どこかで聞いた名前だ、と思うのも無理はない。氏は、圧政と汚職で1986年のピープルパワー革命で失脚したフェルディナンド・マルコス氏の息子である。母親のイメルダ女史は、マラカニアン宮殿に残した「龐大な靴のコレクション」や、バルコニーからの歌声で聴衆を魅了したことでも有名だ。100億US\$の不正蓄財をした、とも言われている。

36年が経ち、その後生まれた人が過半を占めているので、昔のことに対するアレレギーはもうないのか、あるいはフィリピン国民の鷹揚さの故か、外部からは理解が難しい。

2002年シンガポール勤務時に、マニラを訪問したことがある。半導体の製造時に使う特殊フィルムを販売しており、顧客を集めて技術説明会を行った。

先ず、代理店の社長の招待によるゴルフ。立派なコースで、池越えのホールが幾つかある。池のまわりには必ず若い衆が何人かいる。プレーヤーがミスショット「池ポチャ」をすると、争ってボールを拾いに飛び込む。このボールを幾つか纏めて販売するのである。家政婦として海外に勤務するという機会のない彼らには、貴重な小遣い稼ぎとなる。

午後は技術説明会に陪席。TIやマイクロン等の欧米系メーカー6〜7社から担当者が数人ずつ出席、皆若く平均年齢は20代半ば位と見受けられた。担当担当の説明と質疑応答が終り会議は無事終了。普通はここで散会となるのだが、ここからが「歌の時間」であった。一人が前に出て（多分フィリピンの）流行歌を歌う。勿論伴奏はない。皆静かに聴いている。終わると大きな拍手。また一人が前に出て歌う。7〜8人が歌い終えた約30分後に散会となった。

南国のおおらかさは美点ではあるが、目の前の珊瑚礁を他人に占拠されたままという訳にも行かない。来年には日本の人口を超えるという若い国の今後注目である。

(2022年6月23日)